

小児アレルギー教室のご案内

乳幼児スキンケア教室

令和7年1月22日(水)
15:00(集合研修)

喘息教室

令和7年3月3日(月)
13:30(WEB)

小児アレルギー患者の防災教室

令和7年2月3日(月)
13:30(WEB)

エピペン教室

令和7年1月27日(月)
13:30(WEB)

令和7年2月17日(月)
13:30(WEB)

令和7年3月5日(水)
15:00(集合研修)

申し込み方法等
については
ホームページを
ご確認ください



参加無料

お問合せ

担当課:企画総務課

糖尿病教室のご案内

糖尿病について理解を深め、
正しい自己管理が出来るよう
支援するための教室です。

日時 令和7年2月12日(水)

講師 理学療法士

会場:国保中央病院
緩和ケアホーム飛鳥1階
「ASUKAホール」

時間:13:30~15:00
参加費:無料(申込不要)

お問合せ 担当課:医事課

どなたでもお気軽に
ご参加ください。



外来診療案内

※赤字は女性医師です。 令和7年1月1日現在

診療科	月	火	水	木	金	土
内科	一診	吉 川	竹 田	吉 川	竹 田	吉 川
	二診	後 一	植 山	澤 田	高 井	塩 山
	三診	尾 山	中 村	渡 邊	森 本	後 一
	四診	澤 田	堂 原 (肝臓外来)	野 木 (循環器)	—	渡 邊
	五診	石 原 (循環器)	—	—	—	—
	午後	—	—	(禁煙外来)	—	—
外科	一診	—	—	—	—	吉 川 (第3のみ10時~)
	二診	明 石	杉 森	尾 原	明 石	杉 森
整形外科	一診	佐 本	荒 木	佐 本	片 山	吉 良
	二診	吉 良	森 田	三 島	—	米 田
	三診	—	—	梶 田	—	—
小児科	一診	阪 井	中 農	飯 田	高 川	松 山
	二診	飯 田	高 川	松 山	中 農	阪 井
	午後	—	予約外来 (慢性疾患)予防接種	予約外来 (慢性疾患)予防接種	予約外来 (慢性疾患)	予約外来 (慢性疾患)乳児検診
	アレルギー外来 (午後完全予約制)	—	—	中 農	中 農	—
泌尿器科	望 月	望 月	望 月	望 月	中 井	望 月
皮膚科	—	金 谷	小 川	西 村	—	—
放射線科	—	—	—	—	—	—
リハビリテーション科	—	—	—	—	—	—
緩和ケア科(ホスピス外来)(完全予約制)	山 本	中 村	—	—	山 本	—
緩和ケア外来(完全予約制)	—	杉 森	杉 森	—	—	—
心療内科(精神腫瘍科)(完全予約制)	—	—	—	四 宮	—	—

診療受付時間 初診は午前8:30から午前11:00まで
再診は午前8:00から午前11:00まで
※泌尿器科診療開始時間は9:30からとなります。

休診日 第2・4土曜日、日曜日、祝日
12月29日~1月3日 年末年始休暇

※受付時間以外の時間帯で診察を希望される場合、お電話等にてお問い合わせください。
※リハビリテーション科は当面は院内患者様に限らせて頂きます。※担当医は変更となる場合があります。

◆広報誌「さわやか」についてのご意見・ご感想を募集します◆

今後の広報誌作成の参考にさせていただきたいので、皆様のお声をお聞かせください。(いただいたご意見等への個別回答は行いません)
国保中央病院ホームページの「お問合せ」よりお寄せください。
皆様のお声をお待ちしております。

お問合せフォームQRコード
※内容に「さわやか」の件と
ご記入ください。



国保中央病院 広報誌

KOKUHO CHUO HOSPITAL

さわやか



目次

院長あいさつ	1
過活動膀胱について	2
皮膚・排泄ケア認定看護師について	3
小児科病棟「預かり保育」について	3
【お知らせ】	
小児アレルギー教室のご案内	4
糖尿病教室のご案内	4
国保中央病院への交通手段	4
外来診療表・広報誌へのご意見・ご感想	4

基本理念

医療の質を高めることにより、地域住民の皆様の健康保持と増進に寄与し、住民の皆様に信頼され、愛される心温かな病院を目指します。

新年のご挨拶

院長 佐本 憲宏



皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

当院は磯城3町と広陵町の自治体病院として平成5年に開院して以来、これまで地域医療の充実のため、その使命と役割を果たしてまいりました。当院は基本理念に「医療の質を高めることにより、地域住民の皆様の健康保持と増進に寄与し、住民の皆様に信頼され、愛される心温かな病院を目指します。」を掲げ、医療の質を高めることは医師のみならず職員一同で責務と考えております。また、皆様に信頼され、愛される心温かな病院であり続けることをこれからも目指してまいります。

さて、令和7年を迎えて、令和2年1月から始まった新型コロナウイルス感染症についてもほとんどインフルエンザと同様の扱いとなり、コロナ前の令和元年の日常にもどった感じがあります。

現在も様々なウイルスや細菌感染症の感染予防の観点から病院内ではマスクの着用をお願いしておりますので、ご協力をお願いいたします。

さて、令和5年7月から地域包括ケア病棟である6階病棟を大規模改修し、リニューアルオープンいたしましたので、患者様には、十分にリハビリテーションを行っていただき、自宅や介護居宅へ退院していただく存じます。また、比較的中短期のリハビリテーションを目的とした入院もこの地域包括ケア病棟を利用していただいて、活力をつけていただく試みも行っております。すでに多くの患者様にリハビリ入院をご利用いただいております。ご本人のみならず、ご家族に感謝のお言葉を多く頂きまして、今後も継続していく所存であります。

さらにそれに加えて、令和6年6月から、地域の高齢者を中心とした軽度急性期の患者様のために3階病棟を地域包括医療病棟とし、早めからのリハビリテーションと栄養管理を行って、早めの自宅退院を図っております。

これにより、当院は3階が地域包括医療病棟、4階は小児病棟、5階は急性期対応病棟、そして6階が地域包括ケア病棟、別棟の緩和ケア病棟と併せ、様々な患者様に対応できる体制を整えております。

これからもすべての診療科、各部署において国保中央病院での診療に十分に満足していただける体制をとり、職員一同で日々精進していきたいと思っている所存です。

当院へのお問い合わせやご要望がございましたら、ご遠慮なく地域支援センターまでお問い合わせください。

これからも皆様のご理解とご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

過活動膀胱について

泌尿器科部長 望月 裕司

膀胱に徐々に尿がたまってきて膀胱がいっぱいになる「=蓄尿」と、もう尿がしたい「=尿意」が強くなり、尿をしようとします「=尿排出」。

排尿障害は尿排出障害と蓄尿障害に分かれ、急に我慢できないような尿意が起こる「=尿意切迫感」、トイレが近い「=頻尿」、トイレに行くのが我慢できず尿が漏れてしまうことがある「=切迫性尿失禁」などのさまざまな症状がみられます。排尿障害は加齢とともに患者数や頻度が増加し、QOL(Quality of Life:生活の質)を損なう大きな要因となります。

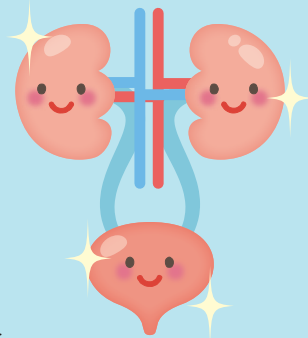
なかでも過活動膀胱は尿意切迫感を必須症状とし、頻尿や夜間頻尿をしばしば伴い、切迫性尿失禁はあつたりなかったりする症候群で、最近の調査では40歳以上の男女の8人に1人が過活動膀胱の症状をもっていると言われています。

過活動膀胱は脳と膀胱を結ぶ神経のトラブルで起こる「神経因性」とそれ以外の「非神経因性」があります。「神経因性」としては脳卒中などの脳血管障害、糖尿病などの末梢神経障害、認知機能低下、脊髄疾患などがあり、「非神経因性」としては男性の前立腺肥大症や、女性では加齢や出産によって膀胱・子宮・尿道などを支えている骨盤底筋が弱くなったり痛んだりすることが原因となります。膀胱炎などの尿路感染症、膀胱結石、膀胱癌などの悪性疾患、心因性でも過活動膀胱症状を呈することもあります。

診断には排尿症状の問診票や、尿検査、超音波検査での残尿測定や膀胱形態の評価などの比較的簡単な検査を行います。排尿時刻と排尿量の記録を基本として、尿失禁回数、水分摂取状況、尿意切迫感、尿失禁の発生状況や程度などを記録する排尿日誌は、患者様自身には手間となりますが、診断、治療選択、治療効果判定に有用であります。

治療は薬物療法が主体ですが、食事や飲水習慣および運動などの生活改善、膀胱訓練などの行動療法、骨盤底筋体操などの理学療法などで軽快する場合もあります。

過活動膀胱症状など排尿に関する症状で日常生活にお困りでしたら、気軽に一度泌尿器科外来を受診してください。



皮膚・排泄ケア認定看護師について

皮膚・排泄ケア認定看護師 中田 雅人

皮膚・排泄ケア認定看護師は、創傷・オストミー※・失禁看護の分野において、熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護実践ができる看護師のことをいいます。また、ケアの実践だけでなく、医師や看護師等から相談を受けたり、ケア方法について指導したりする役割があります。

※オストミー…ストーマ(人工肛門、人工膀胱)

具体的な役割

- W(Wound) … 褥瘡(とこずれ)をはじめとする創傷ケアや発生予防、スキンケア等
- O(Ostomy) … ストーマ(人工肛門、人工膀胱)ストーマ装具選択、日常生活のアドバイス等
- C(inContinence) … 失禁による皮膚障害に対する予防や改善のケア等

皮膚・排泄ケア認定看護師は、上記の頭文字をとってWOCナースと呼ばれる事があります。

当院は、皮膚・排泄ケア分野では、ストーマを保有している患者様が、安心して日常生活を送るために専門的なケアを受ける事が出来るストーマ外来や週に1回、褥瘡対策チームで褥瘡回診を行っています。

これからは、フットケア(爪や胼胝(たこ)、糖尿病による足病変などのケア)や排尿障害のケアも力をいれたいと考えています。お困りの方は、お気軽にご相談下さい。



小児科病棟「預かり保育」について

保育士主任 三好 有希

当院4階小児科病棟は令和元年7月より入院中のお子さまを対象に生活の援助を行う専門職として保育士を配置し、「預かり保育」を開始いたしました。入院中はお子さまだけでなく、ご家族の方も体調を崩したり、不安になったりする事があります。「子どもが笑顔になり私も嬉しい」、「自宅で入浴、休養が出来てリフレッシュになった」、「2時間も預かってもらえるので家に帰り家事を済ませ、自宅に居る子どもにも触れ合えるなど大変助かった」など様々な嬉しいお声も頂いております。

入院生活は普段の暮らしから切り離された非日常です。お子さまだけでなくご家族の皆様の不安やストレスを軽減し、笑顔で過ごせる時間が少しでも多くなるように医師、看護師等と連携して次のようにサポートさせていただいています。

- ◎保護者の代わりに保育士がお子さま一人ひとりの病状や治療に配慮した保育を行っております。
- ◎明るく開放的なプレイルームには季節に合わせた装飾があり、また玩具や絵本等を設置しております。
- ◎その他、看護師、保育士が企画するクリスマス会等のイベントも定期的に行っております。

詳細、お申込みについては4階詰所にて随時行っておりますのでお気軽にお問い合わせ下さい。

